

◆子どもの読書活動推進研修会◆

村山地区「子どもの読書活動推進研修会」①

- 1 テーマ 「すべての子どもたちに『本』と触れ合う楽しさを
～こんな読書活動もあっていい!～」
- 2 期日・会場 令和6年7月3日(水)
河北町総合交流センター サハトベに花
(河北町立中央図書館、交流室A・B)
- 3 参加対象 公立図書館(室)職員、小中学校教職員、
読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、
市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、
市町児童福祉部局担当者、市町子育て支援センター・保育施設園職員、
一般 等(参加者59名)



4 内 容

- (1) 事業説明(15分)
- (2) 講話(50分)
講師:ラーワー ちひろ 氏(絵本作家)
- (3) 河北町立中央図書館・移動図書館車見学(20分)
- (4) 情報交換及びグループワーク(75分)
 - ・「私のおすすめの一冊」及び日々の実践について交流する。
 - ・多様な読書活動のあり方、取組みや工夫について



5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・改めて子どもはそれぞれなので、みんなといっしょに行動するということが必ずしも正しいと思わなくて良いのだなと思いました。読み聞かせの時、全員聞いていないと思うとどこが悪かったのかと反省することもありましたが、そういう子もいるという認識で良いのかなと。
- ・支援が必要な子どもたちへの配慮として、「母国語が日本語ではない」又は「識字に困難を抱える」、今まで気がつかなかったことに気づくことができました。
- ・参加した方々の意見を聞くことができて良かったです。講師の先生との出会いが最高でした。
- ・絵本作りにあたって、絵本作家さんのお話を聞いておもしろかったです。なかなか作品作りの様子やインスピレーションを聞くことはできないので。
- ・子どもは今を生きている。大人は今までの中を生きている。その間を絵本(本)を読むことで楽しめる時間になれば良いと思いました。楽しい時間を共有できる読書が続けていきたいです。
- ・絵本に興味のない子どもがいても、それはその子の成長過程だと思って長い目で見るのが大切だと感じました。

村山地区「子どもの読育活動推進研修会」②

1 テーマ 「絵本には魅力がいっぱい！

～好奇心と想像力をかき立てる子ども真ん中の読み聞かせ～

2 期日・会場 令和7年1月22日（水）山辺町中央公民館（第1研修室、図書室）

3 参加対象 公立図書館（室）職員、小中学校教職員、 読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、 市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、 市町児童福祉部局担当者、市町子育て支援センター・保育施設園職員、 一般 等（参加者43名）

4 内 容

(1) 講 話（60分）

講 師：渡邊 裕子 氏（県家庭教育アドバイザー）

(2) 事例提供及び図書室見学（30分）

事例提供者：川村 陽子 氏

（山辺町中央公民館図書室 司書）

(3) 意見交換（40分）

- ・「私のおすすめの一冊」を紹介する。
- ・グループごとに講話や事例提供を受けての感想、日々感じていること等について付箋を用いて行う。



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・「絵本は支えになる」というところにとっても共感しました。お話を聞いている間、昔読み聞かせしてもらっていた時の気持ちを思い出し、じんとしました。子どもたちにとって私もそういう存在になりたいと強く思いました。
- ・読みたい本ではなく、子どもたちが読んでほしい本という考えが自分にはなく、斬新な考えでした。本の帯を新着の紹介POPとして使っていますが、もっと他の使い道があるのかも、と新しい視点をいただきました。
- ・絵本も紙しばいも読んでもらうこと、とてもうれしく、楽しく、心の栄養をたくさんいただきました。いい時間でした。
- ・紙しばいの良さ、おもしろさを感じました。方言やソーラン節など、めっちゃ笑わせていただきましたあー！
- ・読み手は子どもの想像力や感情を邪魔しちゃいけないんだなあ、そういう気づきが必要かなと感じました。子どもはどこかでちゃんと話を聞いてくれている！

最上地区「多様な子どもの読書活動推進研修会」

- 1 テーマ 「多様な子どもの読書活動や、読書環境整備について
～新庄市立図書館の取り組みから～」
- 2 期日・会場 令和6年11月7日（木） 新庄市民プラザ・新庄市立図書館
- 3 参加対象 読み聞かせサークル会員、教員・保育士等、協働活動支援員等、学校支援ボランティア、公立図書館（室）職員、市町村教育委員会社会教育主管課担当者等（参加者35名）

4 内 容

- (1) 行政説明 「第4次山形県子ども読書活動推進計画」について
山形県教育局生涯教育・学習振興課 佐藤陽介 社会教育主査

- (2) 講演及び図書館見学

講師：新庄市立図書館 館長 高橋 一枝 氏
新庄市立図書館 副館長 阿部 明美 氏

【要旨】

- 「とらいあ」について(指定管理)
- 読書バリアフリーについて(大活字本、拡大写本、LLブック、点字本など)
- 「りんごの棚」について
- 新庄市立図書館見学



- (3) 情報交換

講演の感想と、日頃の読み聞かせ活動についての情報交換



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・いろいろなツールを使える場や方法などをもっと広く広めて行ってほしいと思いました。
- ・「面白いと思える本がない」という中高生が、思わず手に取りたくなる学校図書館の環境整備や働きかけなど、読書や本に興味がない、持てない、敬遠しがちな生徒に図書館教育はどのように携わっていけばよいのかヒントを得たいです。
- ・いろいろなパターンを体験する機会があればいいと思います。
- ・朗読活動に興味があります。
- ・多様な読書に関しては、各機関ともまだきっかけをつかめていない気がします。学校、行政、図書館など、多方面で協力して進めて行くべきだと考えます。
- ・多様な子どもへの対応について学びたいです。
- ・アクセシブルな書籍を使った取り組みなど実際の事例を紹介、研修してほしいです。

置賜地区「子どもの読書活動推進研修会」

(兼 第2回公民館・コミュニティセンター・社会教育関係職員等研修会)

1 テーマ 「子どもが読書に親しむ環境づくり

～すべての子どもに本との素敵な出会いを～

2 期日・会場 令和6年11月7日(木) 川西町交流館あいぱる

3 参加対象 各市町教育委員会社会教育主管課、図書館職員、読み聞かせボランティア、小学校・幼稚園教諭、保育士、公民館・コミュニティセンター職員等 (参加者49名)



4 内容

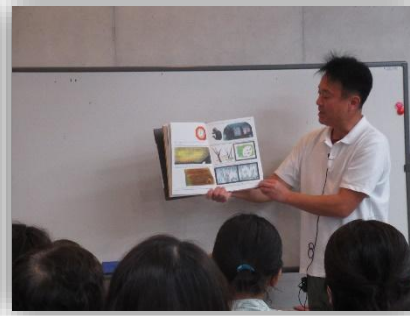
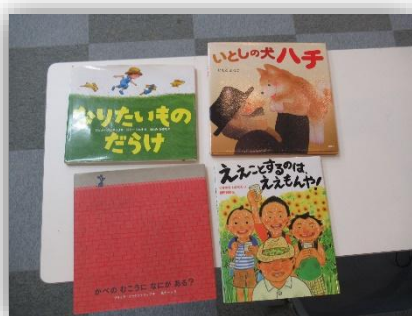
(1) 講師：山田 昭彦 氏

(一般社団法人 JAPAN 絵本よみきかせ協会認定 絵本よみきかせセラピスト®)

(2) 講演及び演習

○講演「子どもを取り巻く読書環境づくりについて」

○演習「絵本よみきかせのコツ講座」



5 参加者のアンケートから (記述抜粋)

- ・仕事上、子どもたちに読むことはありますが、大人を相手に読むことはないため、読み聞かせをして、自分の良さを伝えて頂き、普段の保育を行う上でもとても自信になりました。自分の良さを活かして、これからも子どもたちに、自分の好きな本をたくさん読んで、絵本の楽しさを伝えていきたいと思えます。
- ・楽しい絵本に出会うことができました。やっぱり絵本好きだなあ・・・と思いました。そして自分の好きが大事だということ、自分が楽しむこと、伝えたいと思う気持ち大切だということ。子どもに伝わればいいなあと感じました。
- ・読み聞かせに技術やコツはいらす、自分の思いを伝えることで、子どもたちが「楽しい」「もっと見たい」につながるのだと感じた。
- ・読み聞かせてもらうことは、ただ本を読んでもらうだけではなく、心の交流であることが実感できた。とても温かい気持ちになりました。

庄内地区「子どもの読書活動推進研修会」

1 テーマ 「今こそ読書の概念アップデート！～読書活動新時代へ～」

2 期日・会場 令和6年10月25日（金） 庄内総合支庁講堂

3 参加対象 子どもの読書活動に関わるすべての方、幼稚園・認定こども園・保育所教職員、小・中・高校教職員、市町図書館関係者、読み聞かせサークル会員、各市町職員、地域一般の方等(参加者 31名)

4 内 容

(1)説 明 「第4次山形県子ども読書活動推進計画について」

(2)講 演

講 師：川越 ゆり 氏（東北文教大学短期大学部子ども学科教授）

【要旨】①現代の子どもを読書に導くには最初が肝心
（読み聞かせと読書の橋渡し）

②大人側の先入観が本嫌いを増やしている可能性

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・子どもの頃から、活字に触れる＝本を読むという感覚で育ってきた私にとって、今回の講演は目から鱗だった。私の感覚もアップデートして、子どもたちに還元できればと思う。
- ・紙を媒体とした読書だけでなく、デジタルやオーディオの機器を使った読書活動が当たり前になりつつあるのだと気づいた。思考力をつけさせるための読書ではなく、読書は楽しみであるのだと再認識できた。
- ・大人の読書に対する概念もアップデートしないといけないと感じた。絵本から児童文学につなげるためには、小さい時に文字を読んでイメージが膨らむ楽しさをたくさん経験させておいた方がよいということがわかった。
- ・読書に対する先入観が変わっていくことが再認識できた。学校図書館としては国語科の読解力を養う部分も残しつつ、先生の講話のような読書活動も進めていきたいと感じた。
- ・絵本と児童文学をつなぐ幼年童話の大切さを知ることができた。

